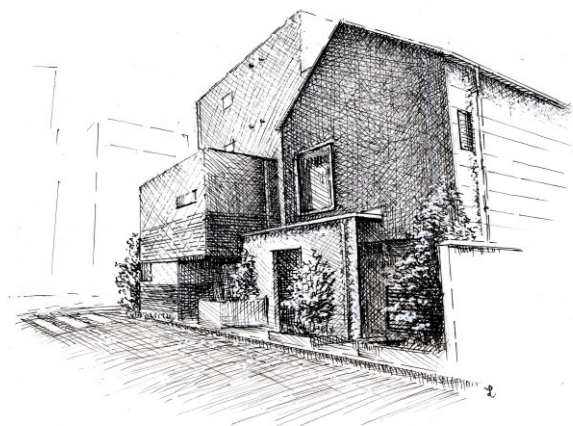


2021年11月30日発行

今井館移転・新築竣工によせて

今井館教友会相談役 大山綱夫



かねて移転・建築を進めてまいりました今井館が9月末に竣工し、施主検査および建物の引き受けも無事済ませました。感謝をもってご報告いたします。今後、仮事務所からの引っ越し、別置保管中の図書・資料等の搬入・配架・整理を済ませたのち、来年1月末に開館の運びとなりました。ここに至るまで、ご心配とお祈りを頂き、募金にご協力賜りました教友会の皆様に、同時に無教会・教会・キリスト教界の枠を超えて趣旨にご賛同頂き、ご芳志を賜りました方々にも、心より御礼申し上げます。

今井館は1907年の暮、内村鑑三の自宅の敷地内に、大阪の香料商今井樟太郎の遺志による寄金によって建てられました。翌年6月は『聖書之研究』第100号の発行月にもあたり、今井の命日の6月5日に感謝の開館式が行われました。内村は、「紙上の教会」たる雑誌伝道と今井館での直接対面による伝道とを、同時に展開できる場を備えられ、召天の日まで、東京中心部での特別集会や地方伝道のほかは、ここで聖書集会と『聖書之研究』の刊行に専念しました。ここに集った青年たちの中から、矢内原忠雄をはじめ、のちの無教会指導者・聖書研究者・学術教育界や官界の指導者や、第二次大戦後復興期に精神的指導者として重きをなした人々が輩出したことは、皆様ご存知の通りです。

しかし、内村召天後の今井館の歩みは平坦ではありませんでした。東京市の道路拡張計画のための余儀ない移転。1935年に目黒区中根に借地を得て移設したものの、思想統制に悩まされた戦時下の日々。先人たちの苦難を忘れてはなりません。

戦後、今井館は矢内原の個人集会や諸種集会に用いられていましたが、1971年教友会によって運営される「社団」が作られ、財産・事業の管理運営の責任主体の明確化が図られました。さらに2001年にはNPO法人となり、それまでに寄せられていた内村・無教会関係の貴重な資料類の保管・管理のために、2004年には資料館を新設しました。今井館は無教会の諸集会に多用されたばかりでなく、研究者やメディアからは、内村・無教会関係の調査・研究上、最も信頼される資料館と目されるようにもなりました。

しかし、2010年前後から運営上の様々な努力にもかかわらず、高額化する借地代を主因として、どのようなシミュレーションによっても存続の見通しが描けなくなりました。数年にわたる真剣な議論を経て、万策尽きたかに見えていた2017年秋、荒井克浩氏より自身の集会に用いていた建物の建つ土地を賃貸し、将来的には遺贈するとの、思いもかけない申し出がありました。理事会は、これを今井館創設に至った今井樟太郎の遺志にも並ぶ貴い志として厳粛に受け止めさせて頂きました。その後、慎重な検討を重ね、移転・新築に決し、それに対する皆様のご協力による結実が、この度の竣工です。

創設から114年、本館に関わった先人の足跡を精神的遺産として、今井館は後世へ向けて、新しい歩みを始めます。本号別掲の「内村鑑三の言葉」をも覚えて、今後ともご理解とお祈りとお支えを賜れば幸いです。

目次・内村鑑三の言葉

表紙について・発行趣旨……………2	学校・学寮だより……………8
新今井館について……………3	各地からの報告……………11
新資料紹介……………4	定期集会・地域別特別集会等……………12
内村鑑三研究講演会報告……………5	事務局便り……………15
鶴田淑子姉逝く……………7	維持会員募集のお知らせ・編集後記……………16

内村鑑三の言葉

諸君、今井君は今、何処にありや

諸君、今井君は今何処にありや（中略）今井君の居る処は彼れの愛せる者の心たる也（中略）曾ては一人の今井君が今は多数の今井君となりて諸方に其志をなしつつあるなり（中略）義しき人の記憶は永遠に人心中に生きて偉大なる感化を与ふる也（中略）我等は御互い我儕の肉体のうちに故今井君の霊を活かして彼の志を継承する覚悟を固めんことを望んで措かざるなり

（上記は、先号掲載の「今井樟太郎君追悼演説」の後半部分から採り、漢字のルビ・傍点は省き、表題は選者が付けた。「内村鑑三全集」15巻、岩波書店、1981年）

（選：NPO法人今井館教友会相談役 大山綱夫）



○表紙について

記念すべき『今井館ニュース』第51号巻頭言は、今井館相談役大山綱夫さんが、114年の今井館の歴史についてお書き下さった。新今井館のペン画は今井館ニュース編集委員会委員長の川中子義勝さんの手によるもの。また、かねてよりご案内した通り、『今井館ニュース』も今号から刷新し、表紙のロゴも新しく、デザイナーの高島鯉水子さんが旧今井館資料館の木製看板の揮毫をもとに作成して下さいました。

(C.Y.)

『今井館ニュース』発行趣旨

NPO法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。